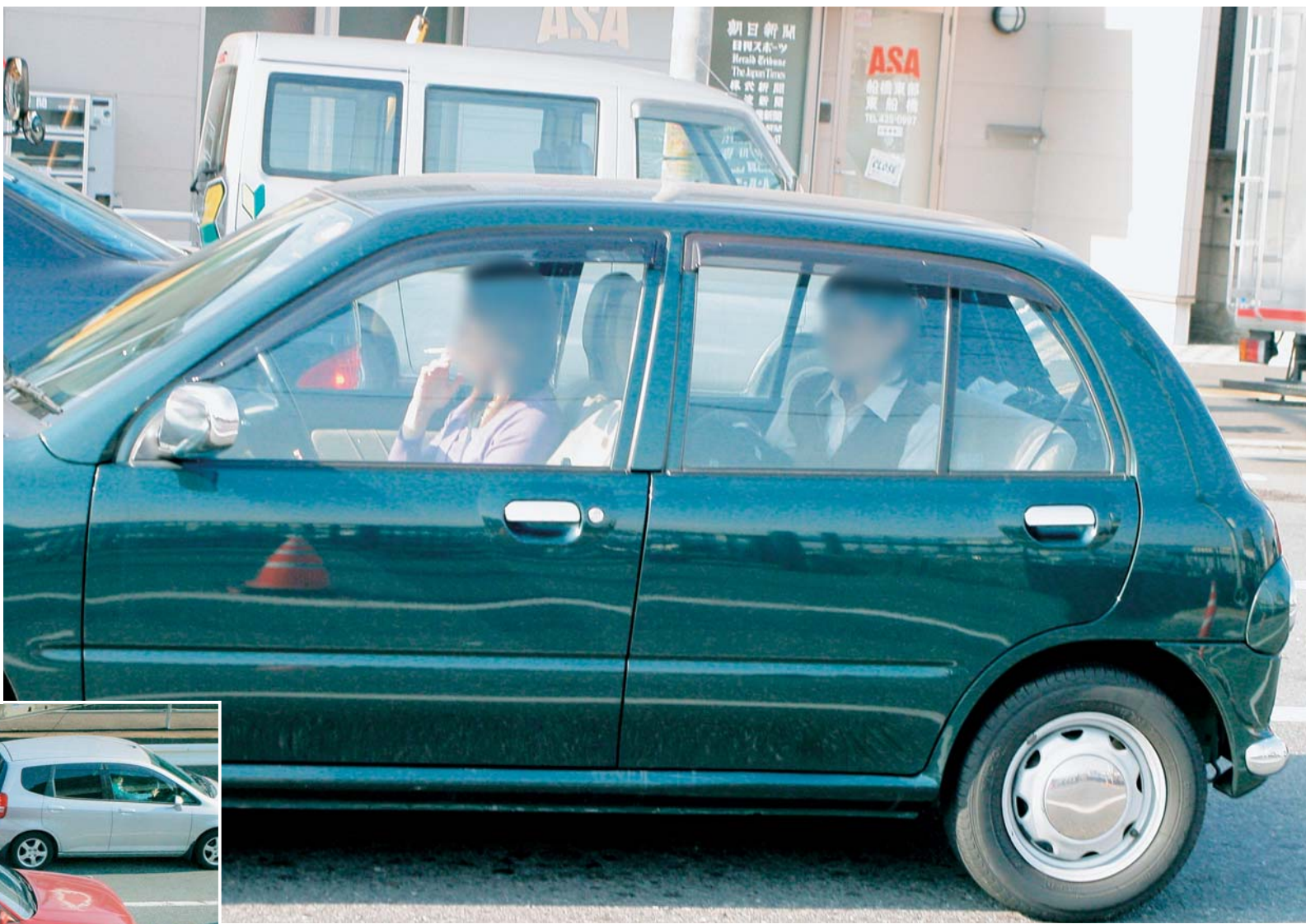


# DOCUMENT Eye

混合交通を観察する series—191



●WHY  
昨年10月に警察庁と(社)日本自動車連盟(JAF)が合同で『シートベルトの着用状況調査』を実施した結果、一般道路における運転席での着用率は92.4%、助手席は80.3%、後部座席は

●後部座席同乗者はシートベルトを着用しているか?



写真上/後部座席でシートベルトを着用していた人はきわめて少なかった  
写真下/運転席のシートにもたれかかっている後部座席の子ども

●観察場所/千葉県船橋市浜町2丁目付近  
●観察日/2005年11月23日(水曜日・祝日)  
●天候/晴れ ●観察時間/12:00~13:30 ●観察者/3名

8.1%であった。シートベルトは、万一の交通事故に遭った際に負傷の程度を軽減する効果が高い安全装備である。運転席および助手席ではシートベルトの着

## ●後部座席同乗者のシートベルト着用状況を観察する 乗用車の後部座席同乗者524人中 シートベルトを着用していたのは74人(14.1%)

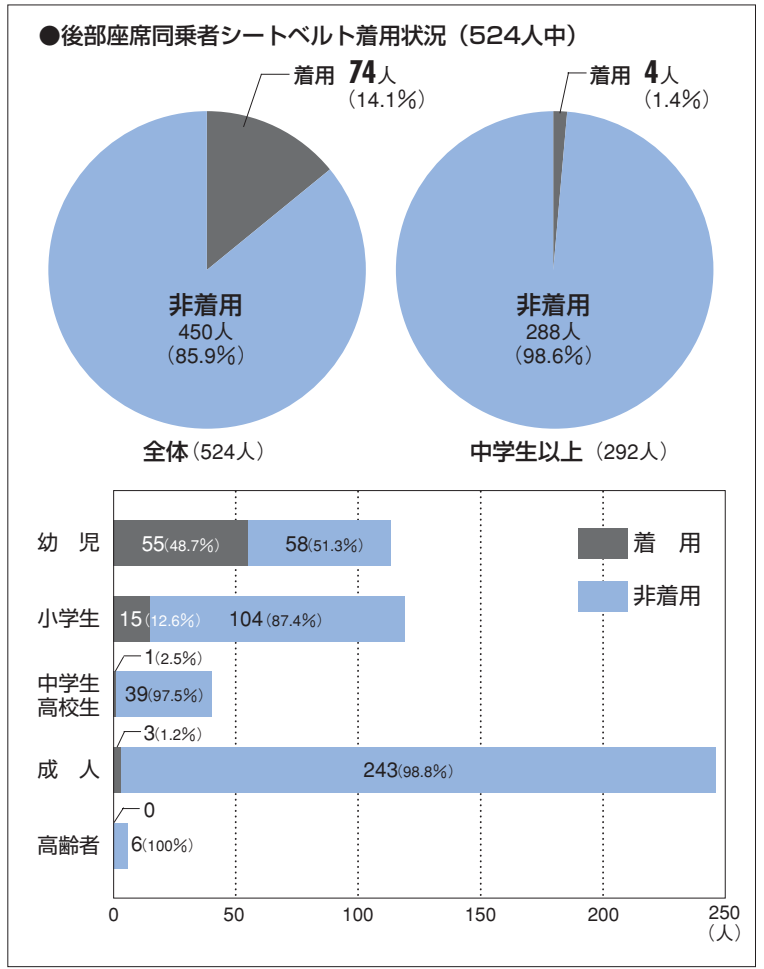


後部座席で親と思われる大人に抱かれている幼児

●WATCHING  
用は道路交通法で義務付けられているが、後部座席に関しては、乳幼児や小学校低学年の児童が乗車する際のチャイルドシート使用の義務付けのみである。  
後部座席同乗者のシートベルト着用状況について、休日の昼間、大型商業施設周辺の一般道路で観察した。

●中学生以上では着用率わずか1.4%  
観察地点は千葉県船橋市にある大型商業施設近隣の一般道路。祝日ということもあり多くの買物客が、この大型商業施設にクルマを利用して訪れていた。その多くは乗用車で、後部座席に乗っている人の年齢層も幅広かった。

●後部座席同乗者がいるクルマすべてを対象に、後部座席でのシートベルトの着用状況を世別に観察した。正午から1時間30分の観察で、後部座席同乗者がいたクルマは360台、後部座席同乗者は



※幼児(6歳以下)、小学生(7~12歳)、中学生・高校生(13~18歳)、成人(19~64歳)、高齢者(65歳以上)の判断は観察者の見解による。  
幼児はチャイルドシートを使用していた場合を着用とした

合計524人だった。  
チャイルドシートを含め後部座席でシートベルトを着用していた人は、524人中74人(14.1%)。中学生・高校生以上では、292人中4人(1.4%)と、後部座席でシートベルトを着用していた人はきわめて少なかった。着用していた人はすべて女性で、このうちの1人は初心者マークを付けたクルマに同乗していた。  
幼児では半数以上がチャイルドシートを使用していなかった。チャイルドシートがあるにもかかわらず、母親などが子どもを抱えている例も多かった。また、車内で立ったり、シート上に立ち上がった、ジッとしていない子どもも目立った。  
また、成人でも走行中に、運転席と助手席の間に身を乗り出していた人が少なかつた。

●PROPOSE  
クルマに乗ったら、どの席でもシートベルトの着用を  
クルマには乗車定員分のシートベルトが装備されている。もちろん後部座席にもシートベルトが装備されている。衝突事故の時は、後部座席にも衝撃がかかる。後部座席同乗者がシートベルトを着用していないと、車外に放出されたり、あるいは運転席や助手席の人にダメージを与えてしまう危険性がある。そのため、後部座席でもシートベルト着用が必要である。  
今回の観察では、家族と思われる人が後部座席に乗っているケースが多かった。近距離の移動であっても、自分の大切な人の命を守るために、ドライバーは同乗者に着用の重要性を説明し、後部座席でもシートベルトの着用を促進してほしい。